はしがき

1. 本稿を作成するまで.

本稿を仕上げるにあたり，会社を退職することを決意してから，これまでの経過を振り返ってみた.

会社を退職するまえに，1963 年に卒業した大学で，ゼミナールで指導を受けていた速水融先生を訪ねて，会社を退職して戦前期の昭和史の勉強を始めたいと胸の内をうちあけた. 1995 年の 3 月末であった．速水先生は，そうであればまず大学院に入学しなくてはいけないとおっしゃり，研究範囲が戦前期の昭和であれば,『昭和史』の著者である中村隆英先生が当時教授をされていた東洋英和女学院大学大学院を紹介していただいた.

会社を退職した際の退職金と 60 歳から支給を受ける厚生年金を調べて，妻に了解を得た後，95 年 4 月に会社の上司に話し退職の了解と理由を説明した．上司は快く了解していただいたが，退職時期は来年 3 月にしてほしいとの話があった．しかし大学院の受験勉強があるので 3 月は無理である旨理解を求め, 結局その年の 9 月末に退職ということになった.

速水先生からは，教えをいただく先生の著作は全部事前に読んでおくのが礼儀であるとのお話があり，受験勉強は英語の他に中村先生の著作を読まなくてはいけないことになった．しかし会社員時代は司馬遼太郎クラスの本を読んでいた私にとって非常につらい経験でした．実際に中村先生の最後の著作に眼を通すことができましたのは，修士課程入学してからだいぶ後になりました．修士課程入学後は，中村先生だけでなくたくさんの先生方から貴重なご助言とご指導をいただきました．ここで先生のお名前を挙げさせていただきませんが，この場を借りして厚く御礼を申し上げます.

実は入学前の話に戻りますが，大学学部速水ゼミの卒業生として徳川時代の経済社会について，最低限の理解を持っておく必要があるので，ゼミ OB 会の打ち合わせが終わった後などに，お忙しい中を浜野潔先生，友部謙一先生，鬼頭宏先生から貴重なお話をいただきました．この場をお借りしまして厚くお礼を申し上げます.

入学後間もなく，中村先生のご指導を受けている際に，私がこのまま続けて勉強したいとの話をしましたら，先生はそれでは博士課程に進まなくてはいけない，覚悟をしていなさいとおっしゃいました.

中村先生のご指導で修士課程の修了見込みがつきましたころに，中村先生から一橋大学の博士課程の編入試験を受けてみたらどうかとの話をいただきましたので，試験要領書を取り寄せました．しかしその年 4 月入学の第 1 次試験は，前年の 9 月に終わっておりました. やむなくその年の 9 月に第 1 次入学試験, 翌年の 3 月に第 2 次試験を受けまして, 1999 年 4 月の入学を許されました.

修士論文を仕上げました頃に，中村先生からその要旨を当大学経済研究所『経済研究』に投稿することを勧められ，何も分からずに寄書として投稿しました．結果は不採用でしたが，編集主任の高山憲之先生からご丁寧なコメントをいただきました．中村先生と相談

して再度修正を重ねまして，本学博士課程に入学が許された頃に採用通知をいただきました．この内容が本稿第 1 章の一部を構成しています．両先生にはこの場を借りまして厚く御礼申し上げます．

入学後は主ゼミとして斎藤修先生，副ゼミとして佐藤正広先生のご指導をいただくことになりました．斎藤先生より，京都大学にあるまだ誰も使用していない『農家経済調査』の個票の写真を撮ってきて，それを博士論文の一部にしたらよいのではないかとのお話をいただきました．実は修士課程の入学前のころであったと思いますが，浜野潔先生から経済史の研究は新しい資料を見つけることができれば，年齢を重ねてから研究をしても大丈夫であるとのお話をいただいたことを思い出し，重ねて浜野先生にはお礼を申し上げます．

資料が保管されている京都大学には，佐藤先生に連れて行っていただきました．そこで京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻保管の『農家経済調査』に初めて巡り合うことができました．写真を撮った経験は，いわゆるバカチョンカメラしかない私でしたので，いきなり最先端のデジタルカメラを操作することは難しく，またどこのメーカーがよいか全くわかりませんでした．多くのメーカーがある中でレンタルが可能であったのは，リコーだけでした．そこでリコーの営業所で撮り方と，実際に撮った写真が見えるかどうかまで教えていただきました．撮った写真の印刷方法はヨドバシカメラで親切に教わって，なんとか足かけ 2 年がかりで約 18 千枚の写真を整えることができました．

この資料は，入学 3 年後の単位取得論文作成の貴重な資料となりました．この単位取得論文をもとにして，社会経済史学会の学会誌に投稿をしてはどうかとの話を斎藤先生からいただきました．こちらは『経済研究』のケースと異なり，最初から不採用の返事ではなく個々の不備な個所を訂正せよとのことでしたので，投稿してから意外と早く『社会経済史学』に掲載されました．その際に TOBIT による支出弾力性の計測などの基本指導を北村行伸先生から受けました．こうしてまとめた内容が本稿第 3 章の主要な部分を構成しております．

『社会経済史学』では「主食の主役を米類とすれば，副食の主役は魚類」というまとめをしました．そこで次に，戦前期における米類の消費量ピークの時期を確定するために，資料を探しましたところ，戦前期において酒造米を除いた飯米・餅菓子類を米類として推計された八木芳之助の研究に出会いました．それは 1911-1930 年までの推計であったので，方法を引き継いで 1940 年まで延ばしました．これは第 2 章に入れました．

魚類の方は斎藤先生から，『港湾統計』をチェックして使えるものならば，魚類の流通量と消費量の推計ができるのではないかとのお話がありました．すでに同じゼミの谷口忠義先輩が，この資料から薪炭類の流通について，ゼミにて発表されておりましたので，早速『港湾統計』とのお付き合いが数か月始まりました．一応結果として使えるとの評価ができたので，魚類の流通パターンと消費量推計に一部を採用し，第 4 章に収めました．魚類について『鉄道統計資料』の『鉄道停車場一覧』にも出会いましたので，これを山村にどれだけ塩乾魚と鮮魚介が届いているか，実態を確認できるのではないかとおもい，これと

各世帯の郡と村が明記してある『農家経済調査』のドッキングを考えました．斎藤先生から「五万分の一」地図には，各町と村の役場には〇印を付けてあるとのお話があり，それから国土地理院に通って，魚類が到着している駅と当該農家世帯の町村の役場との距離を図りました．国土地理院では「五万分の一」地図は，パソコンの画面でしか確認できなかったので，まずこれと思しき地図を画面に出してみる．しかしこのままではほとんど黒く文字が読めないので，ヘリコプターから地上近くまでだんだんと降りる要領と同じように，まず郡をみつけて次に村をみつけ，最後に町・村役場の〇印をみつけて，魚類到着駅との距離を定規で測った．一枚の「五万分の一」地図をみて測ることが出来たケースは少なく，多くの場合数枚の地図をそれぞれコピーしてつないで定規で距離を測った．この結果は第 5 章に収めた．

1927 年度のみであるが，農村と都市に分けて消費量を同時に調査した『家計調査報告（栄養に関する統計表）』を見つけたきっかけは，偶然眼に入ったということであった．やがて新中間層の有業者に占めるウエイトの増加と，肉卵乳類の消費量増加との関連をうまく時系列的に表したいという意図のもとに，様々なケースを試行錯誤した．その結果が，第 3 章の農村と都市別のカロリー消費量の時系列的推移の確認であった．これも斎藤先生のカロリー換算は正確にできる米類だけでもよいとの指導があったので，前に進めることができた．

2. 謝辞

本稿作成に当たり学外の皆様より沢山のご指導と貴重なお話をいただきました．改めて厚くお礼を申し上げます．なお役職などは当時のままとさせていただきました．また順不動，敬称略とさせていただきました．

2.1.

最初に『農家経済調査整理簿』と『農家経済調査結果表』の個票の閲覧と撮影を許可いただきました，京都大学大学院農学研究科生物資源経済学の下記先生方に厚くお礼を申し上げます．

（順不同，敬称略）

教授	野田公夫	教授	新山陽子	教授	小田慈晃
教授	稲本志良	教授	辻井博		
教授	加賀爪優	教授	吉田昌之		

2.2.

以下の方々はご多忙中のところお話を聞かせていただき，また貴重な資料をいただきまして本当にありがとうございました．厚くお礼を申し上げます．

（順不同，敬称略）

東京小売酒販組合，東京酒販協同組合連合会　統轄部総務課　高橋徳夫
全国小売酒販組合中央会　情報企画課　田中守
東京理科大学大学院　建築学専攻　大月研究室　小幡一隆
旭化成工業株式会社　食品企画管理部　部長　内藤信行

農林水産省　食糧庁　企画課　農林水産事務官	野添剛司
農林水産省　食品流通局野菜流通課　企画法令係長	高橋一成
農林水産省　大臣官房　統計部　生産流通消費統計課　漁業生産統計係長	浦　隆文
食糧庁総務部企画課　企画第一係長	中沢克典
交通統計研究所　調査研究センター　研究員	森脇理恵
交通統計研究所　調査研究センター　研究員	倉田賢治
日本ホテル協会　参事	満野順一郎
日本食糧新聞社　支社長	斎藤一雄
全国市長会　事務局次長	佐藤正昭
国税庁税務大学校　租税資料館　研究調査員	堀亮一
帝都高速度交通営団　総務部　広報課	久岡祐子
日本たばこ産業株式会社　お客様相談室　主任	池田順一
日本たばこ産業株式会社　お客様相談センター　課長	三宅圭一
日本たばこ産業株式会社　お客様相談センター　課長	中込敬介
日本たばこ産業株式会社　お客様相談センター　主任	矢橋晃
日本缶詰協会　業務部　部長	沼尻光治
日本缶詰協会　技術部　課長	土橋芳和
日本缶詰協会　業務部	藤崎亨
銚子市漁業協同組合　魚市場部　市場庶務課　課長	小保方栄治
株式会社阿天坊　代表取締役会長	阿天坊房吉
株式会社阿天坊　代表取締役社長	阿天坊俊明
レストラン香味屋　代表取締役	宮台良行
下高井戸旭寿司総本店株式会社　常務取締役	高野明久
東京麺類親交会　大橋家　会長	赤羽根一雄
日本百貨店協会　広報調査事業担当	菊地慎二
国分株式会社　流通事業本部　営業企画・業務担当	新谷精二
国分株式会社　経営統括室　副室長　兼流通事業本部　副部長	西田邦生
国分株式会社　経営統括室　課長補佐	岡村宏隆
ブルドックソース株式会社　専務取締役	小島健
ブルドックソース株式会社　参事	阿久津義雄
カゴメ株式会社　社会対応室　広報グループ　部長	清水則夫
カゴメ株式会社　社会対応室　広報グループ　主任	山本善太
株式会社サンヨー堂　関東甲信越支店　副支店長	戸根圭象
株式会社サンヨー堂　広報室	長谷川央
味の素株式会社　総務部　課長	山田千秋
味の素株式会社　広報部　社史グループ　主任	加藤田鶴子

カルピス食品工業株式会社　取締役　営業企画部長　高野哲郎
カルピス食品工業株式会社　総務部　課長　近藤康紀
日本ソース工業会　事務局　次長　岡部勝男
吉見商事株式会社　代表取締役会長　大久保政一
吉見商事株式会社　代表取締役社長　大久保和政
株式会社三友小網　管理統括本部　取締役副本部長　兼人事部長　石川直
日本生活協同組合連合会　江口兢一
株式会社東洋軒　代表取締役社長　金子忠敬
株式会社前川製作所　広報室　室長　手島俊夫

3. 本稿のキーワード

3-1. 食料費支出　Food Consumption Expenditures
3-2. 消費構造　Structure of Food Consumption Expenditure
3-3. 新中間層　New Middle Class
3-4. 1 人当たり食料費実質消費金額
Per Capita Food Consumption Expenditure in 1934-36 Prices
3-5. 農村・都市型家計　Household in Rural and Urban Type

以上